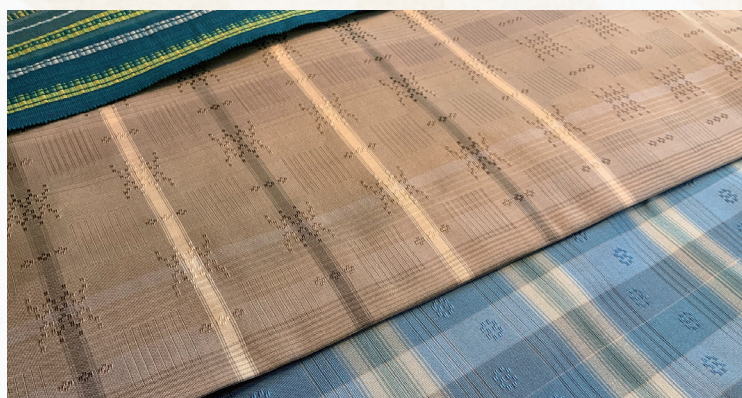


染め織りの魅力を、王都首里から発信する 首里染織館suikara

～琉球びんがた・首里織の新拠点首里染織館suikaraグランドオープン～



首里織

伝統的工芸品について

伝統的工芸品は、伝統的な技術や技法、原材料を用いて主に手作りにより製造される工芸品で、人々の生活に豊かさや潤いを与えています。沖縄県内では「伝統的工芸品産業の振興に関する法律」に基づき、伝統的な技術や技法、原材料を用いて手作りにより製造されるものとして、織物、染め、漆器、三線など計16品目が経済産業大臣により指定されています。



琉球びんがた

沖縄総合事務局では、伝統的工芸品産業について、後継者育成や需要開拓、新商品開発などを支援しています。

今回、県内で指定されている伝統工芸品の首里織及び琉球びんがたの新たな拠点となる「首里染織館suikara」が設立されましたのでご紹介いたします。

首里杜地区の新しい顔

首里杜地区（首里城周辺地域）の一角、龍潭通り沿いに「首里染織館suikara」が2022年4月30日にグランドオープンしました。首里は沖縄の方言で「すい」と発音し、suikaraとは「首里から」という意味なのだそう。琉球びんがた事業協同組合と那覇伝統織物事業協同組合（首里織）の新拠点として、そして首里杜地区の新しい顔として、首里から染め織りの魅力を国内外に発信すると思います。



グランドオープンした「首里染織館suikara」

情報発信、本格体験と 後継者育成

suikaraは沖縄都市モノレール首里駅から徒歩5分。首里城に向かうルート上にあり、大勢の観光客が行き来する絶好の立地にあります。品格漂う外観は、那覇市が定める「龍潭通り沿線地区都市景観形成地域」の考え方を体現したかのようなデザイン。地上三階建ての建物の二階には琉球びんがたの組合が、三階には首里織の組合が工房を設け、後継者育成にもあたります。一階には展示ギャラリーや情報発信スペース、琉球びんがた・首里織を使ったオリジナルグッズなどを販売するショップが設けられています。

展示ギャラリーでは両組合員による最新作の帯・着尺も並び、全国の着物ユーザーにファンの多い「琉球もの」が目を惹きつけてくれます。情報発信スペースでは県内各地の染め織りを紹介。分業化や機械化の進む国内他産地とは異なり、伝統的な手しごとをしつかりと継承する沖縄の染め織りの魅力を発信しています。

また、染織物は呉服問屋から百貨店・小売店という流通経路のために、あまり機会のなかった

「ユーザーと作り手との直接交流」の場を設けることにも積極的。作り手や芸能関係者等によるトークイベントやワークショップ、県立芸術大学や沖縄美ら島財団など外部団体と連携した一般市民向け講座など、楽しい企画が予定されています。

さらに、これまでにはなかった本格的な体験プログラムも用意。4日かけて伝統工芸士と一緒に半幅帯を織り上げたり、ショールを染め上げるなど、ロングステイを楽しむ大人向けの体験商品を開発しています。こうした新しい動きは、両組合も出資して立ち上げた新法人の株式会社suikaraが担います。



suikaraではびんがたでもショールを染める本格的な体験プログラムを用意。

沖縄観光の質の向上を目指している。



織り工程

美しき布たちの物語に 出会う場所

沖縄県の伝統的工芸品16品目のうち、実に13品目は染織品です。沖縄の布たちの物語に出会い、緻密な手しごとの世界を知り、作り手のウミイ(想い)を知っていたくことで工芸品の購買につなげることも大切です。現在、沖縄の染織物は生産量の大部分が県外に流通していますが、県内の方こそ地元の染め織りの魅力をもっと知っていただきたいと考える組合員も大勢います。また、工芸を通して、通り一遍の観光とは異なるディープな沖縄の魅力を発信し、歩いて楽しめる新しい首里の旅を提案していきたいと両組合および新法人では考えています。今秋には首里城正殿の起工式も予定されており、中城御殿や伊江殿内庭園の整備も進めば、人の流れも変わってくるでしょう。今後、ますます首里から目が離せなくなりそうです。

お問合せ先
経済産業部 地域経済課
担当：棚原・新本

☎098-866-11730